

# デジタルアーカイブ特講

## 第15講 「首里城の復元とデジタルアーカイブの可能性」

久世均  
(岐阜女子大学・教授)

# 「首里城の復元とデジタルアーカイブの可能性」

## 【目 的】

沖縄戦では多くの文化資源が戦火に消え、首里城関係資料も多く消失した。前節で述べたように、首里城復元の際の資料収集は困難を極めたが、鎌倉芳太郎が残した資料が首里城復元に大きな役割を果たした。それは、鎌倉芳太郎が戦前に行った沖縄に関する調査記録や収集資料が、戦火を逃れ保存されていたということに尽きる。鎌倉芳太郎は沖縄で撮影したガラス乾板を自身の避難先である防空壕で保管していたという。これら保存されていた資料が、首里城復元において大きな役割を果たしたという事実は、「知の増殖型サイクル」の考え方に当てはめることができる。

首里城復元の際に利用された鎌倉資料は原資料であり、デジタルアーカイブではない。しかし、「知の増殖型サイクル」に適応することで、これからのデジタルアーカイブの在り方が見えてくる。

## 【学習到達目標】

- a. 鎌倉芳太郎と首里城復元の過程で説明できる。
- b. デジタルアーカイブという視点から鎌倉芳太郎資料集について説明できる。

# 鎌倉芳太郎とは

- ◆ 香川県出身の染織家
- ◆ 1921(大正10)年に沖縄女子師範学校の教師として赴任し、琉球芸術に魅せられる
- ◆ 琉球文化の保存、調査研究の発信に取り組んだ
- ◆ 1973(昭和48)年「型絵染」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定

# 「鎌倉芳太郎資料」とは

- ◆ 鎌倉芳太郎が沖縄調査の折に沖縄現地で収集した琉球・沖縄芸術関係資料
- ◆ 大部分が沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館に収蔵
- ◆ ガラス乾板(1229点)、台紙付紙焼き写真(851点)、調査ノート(81点)は、重要文化財に指定

# 「鎌倉芳太郎資料」とは



十七代尚瀨(しょうこう)王御後絵  
(沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵)

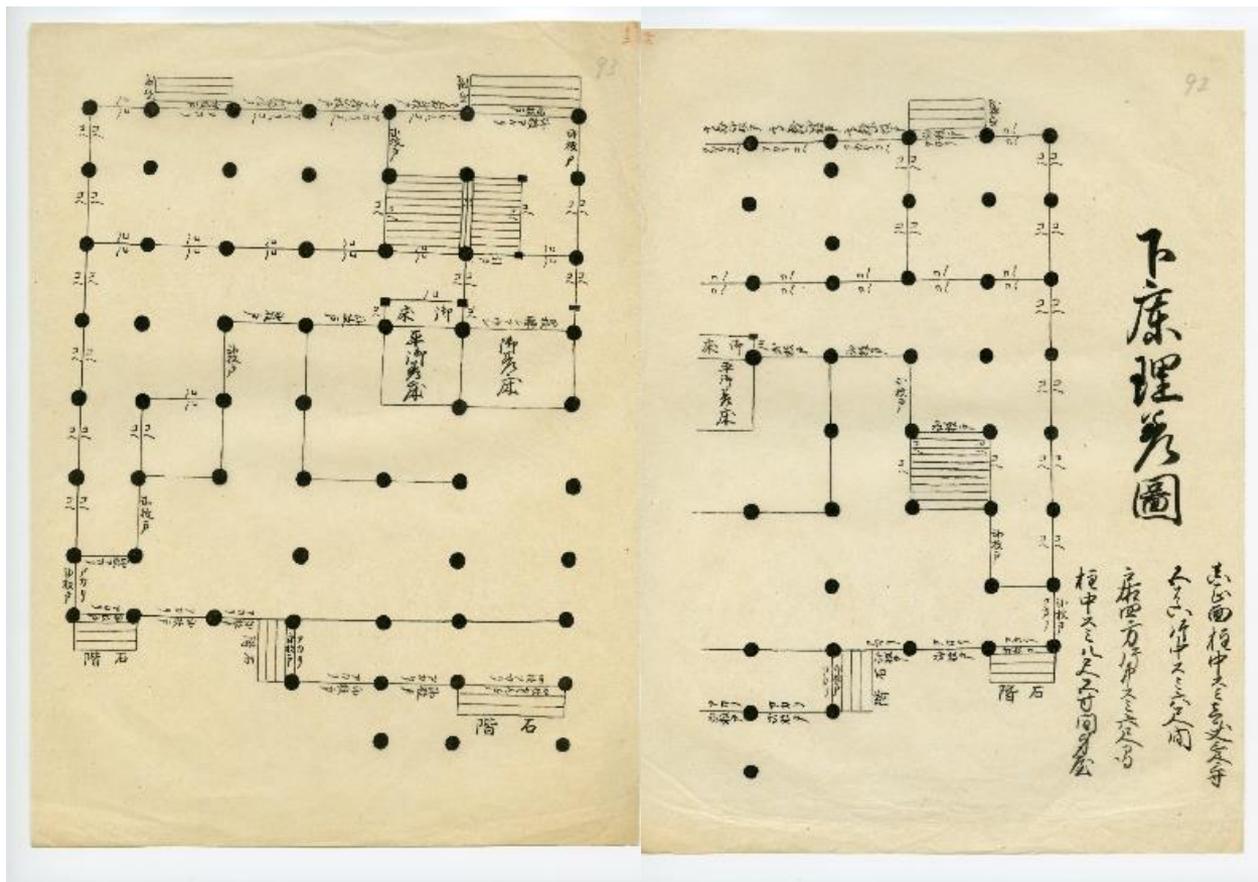
# 鎌倉芳太郎と首里城

- ◆ 1924(大正13)年、首里城取り壊しの動きを止める働きかけを行う
- ◆ 沖縄戦で消失した首里城復元の際の「鎌倉芳太郎資料」の活用

# 首里城復元における鎌倉資料

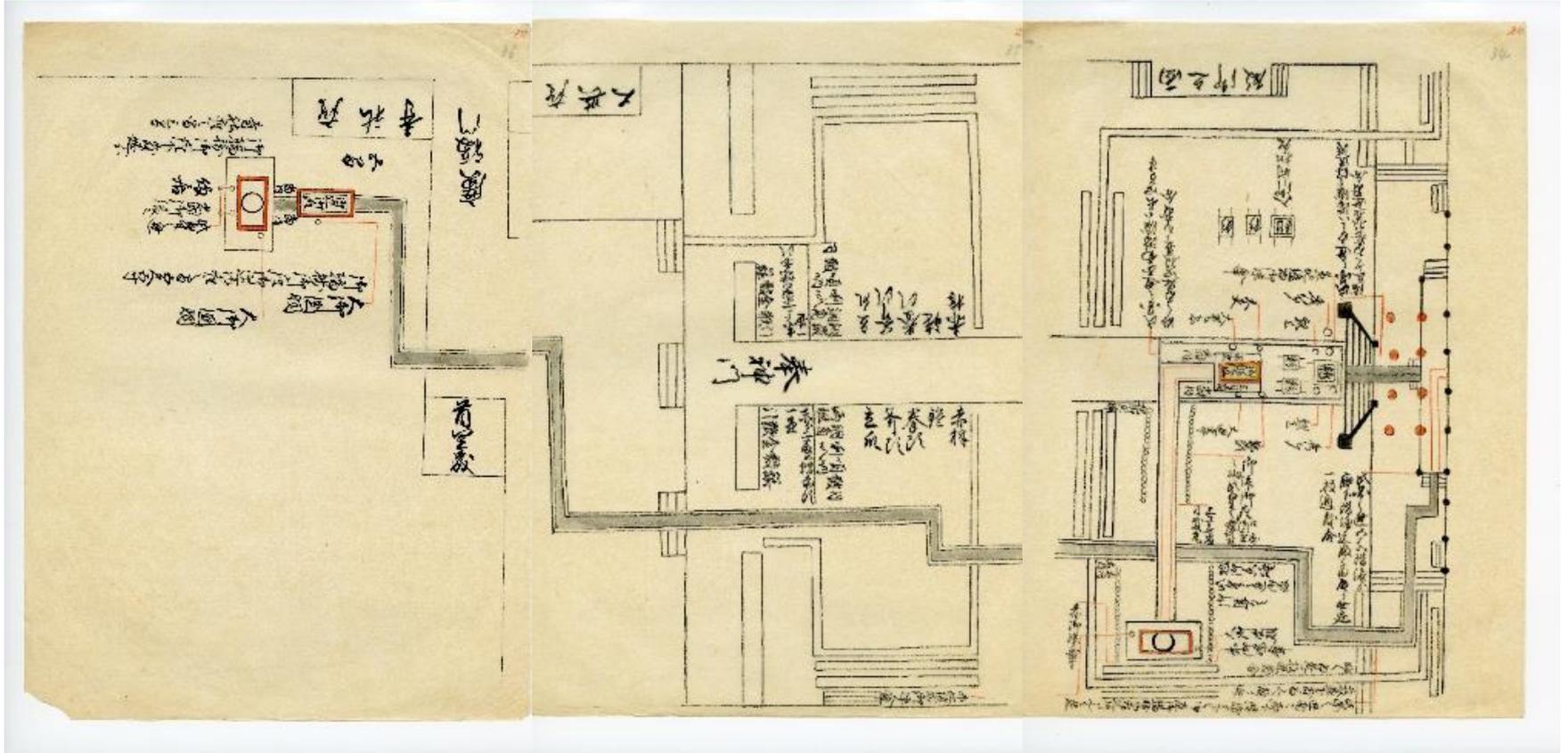
- ◆ 首里城復元においては、鎌倉芳太郎が残したノートや写真が大きな役割を果たした
- ◆ 岐阜女子大学主催の特別講演会において、高良倉吉氏は首里城正殿内の国王の玉座「上庫理御差床」の復元における「鎌倉芳太郎資料」の活用について多く語っている

# 首里城復元における鎌倉資料



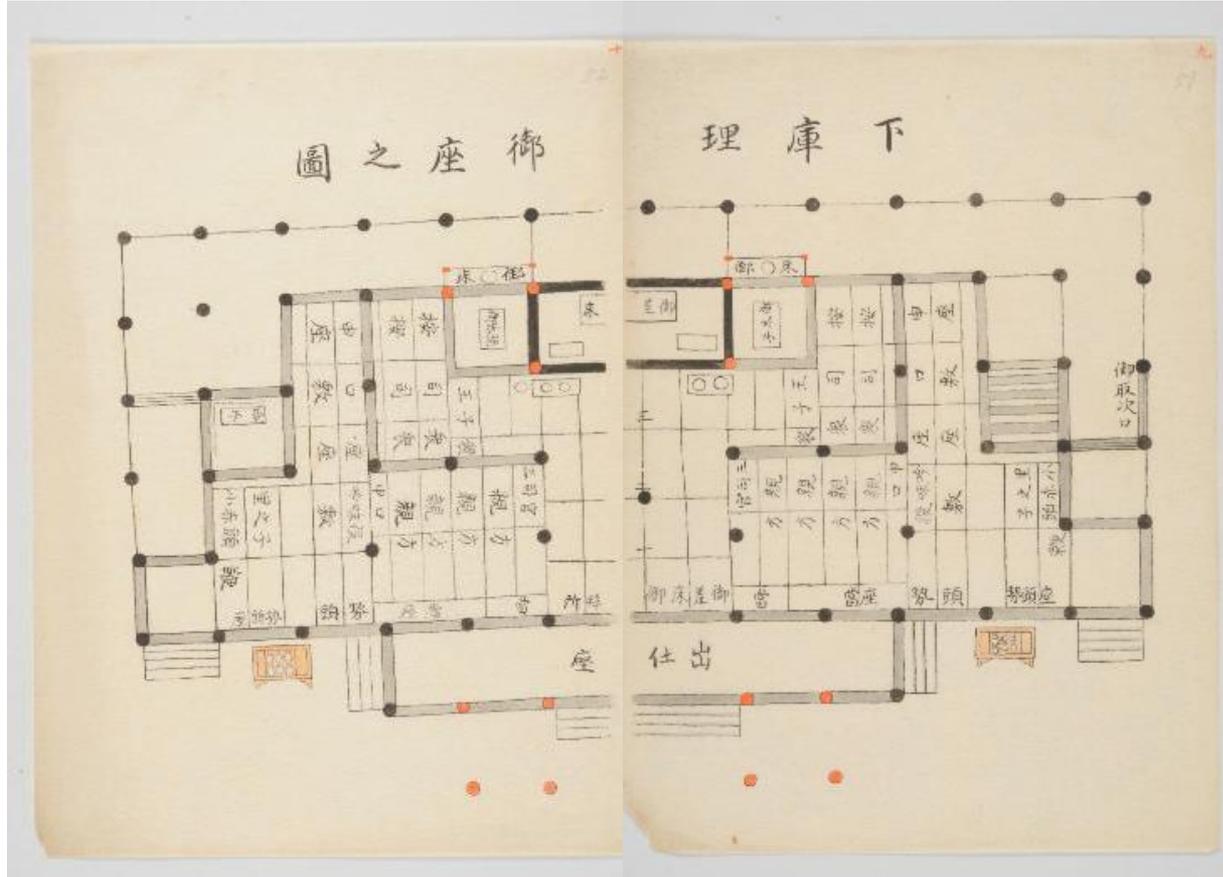
ももうらそえうどうんふしんにつきみえずならびにございもくすんぼうき  
「百浦添御殿普請付御絵図并御材木寸法記」

# 首里城復元における鎌倉資料



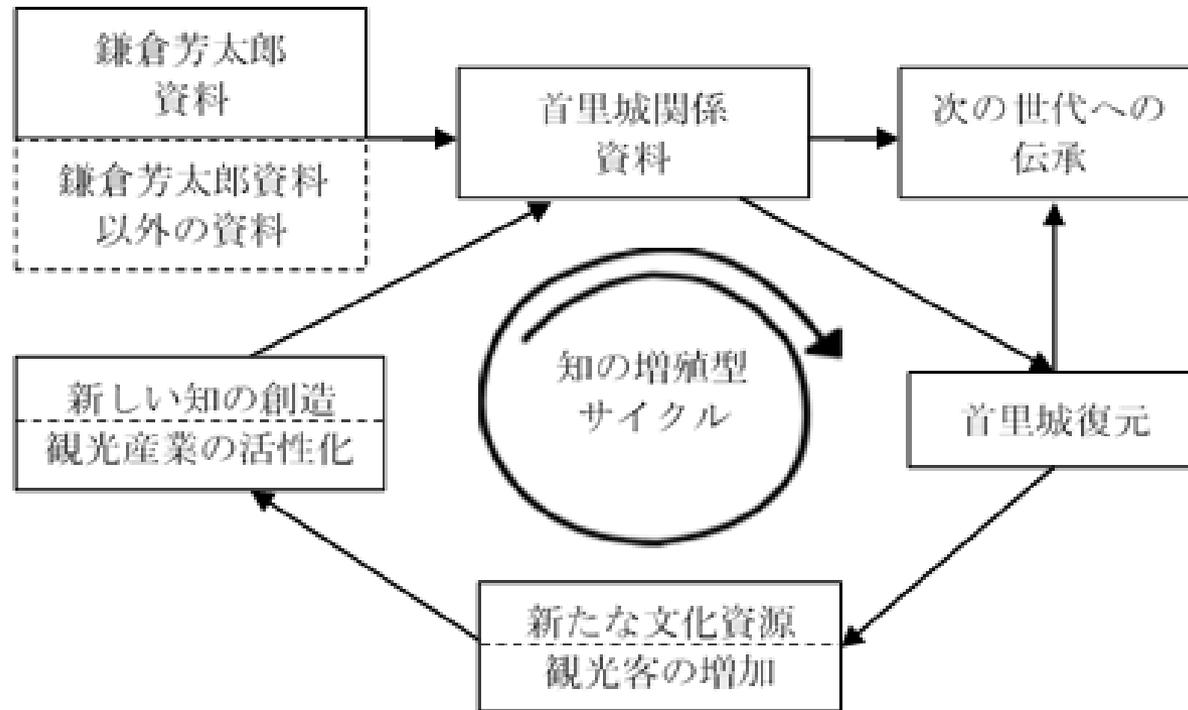
ずちょう しーどうほう  
「図帳[勢頭方]」

# 首里城復元における鎌倉資料

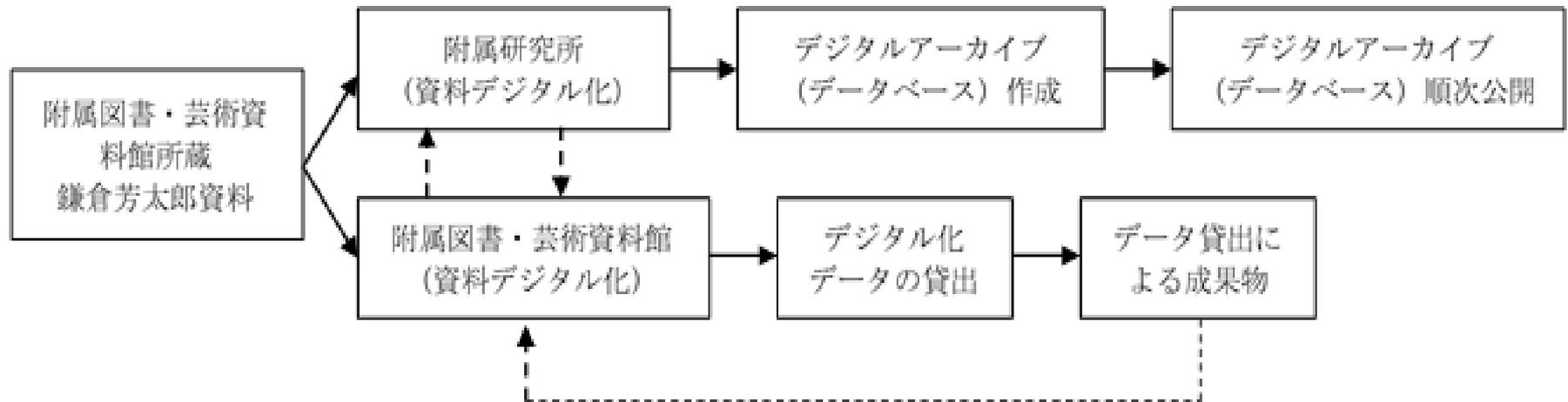


ずちょうあたいほう  
「図帳[当方]」

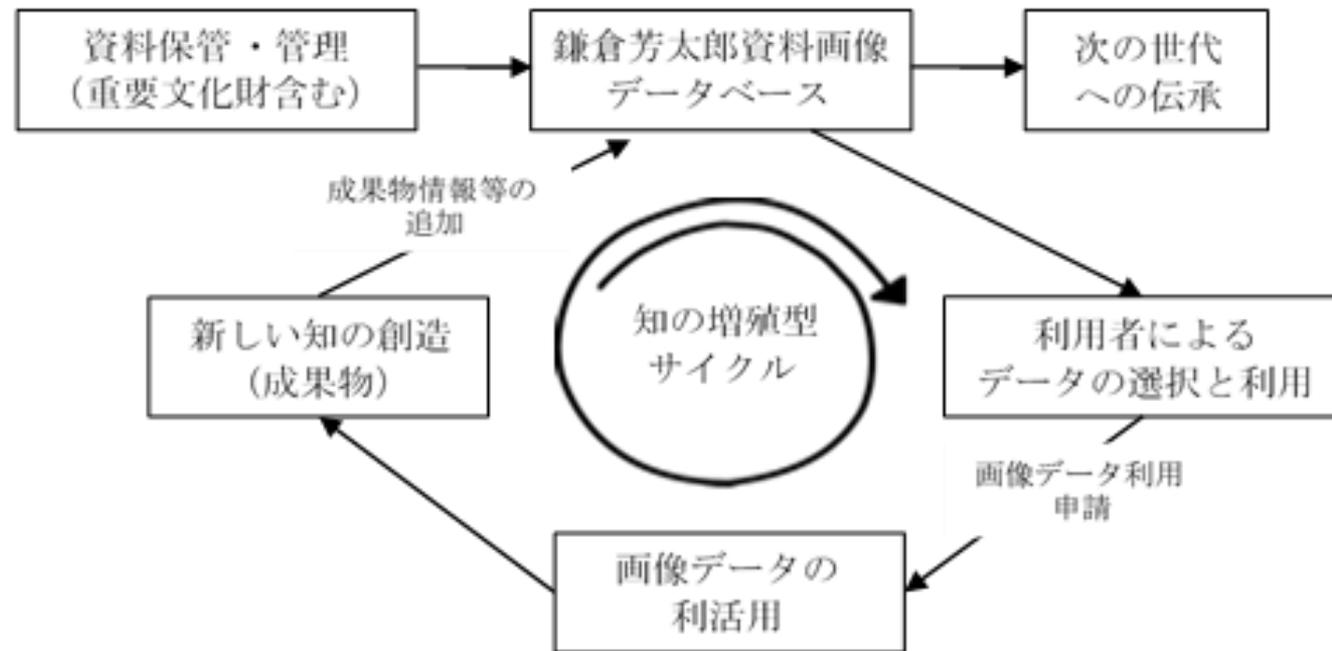
# 首里城復元と「鎌倉芳太郎資料」における「知の増殖型サイクル」の適用



# 「鎌倉芳太郎資料」における デジタルアーカイブ構造



# 「鎌倉芳太郎資料」における 「知の増殖型サイクル」の適用



# 研究課題

首里城の復元に鎌倉芳太郎の資料が重要であったかについてデジタルアーカイブの視点で論述しなさい。

# デジタルアーカイブ特講

## 第15講 「首里城の復元とデジタルアーカイブの可能性」

久世均  
(岐阜女子大学・教授)